

**製品名: Raf-B (リン酸化Ser602) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05344**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	85kDa

**抗原情報**

遺伝子名	BRAF
別名	BRAF; BRAF1; RAFB1; Serine/threonine-protein kinase B-raf; Proto-oncogene B-Raf; p94; v-Raf murine sarcoma viral oncogene homolog B1
遺伝子 ID	673.0
SwissProt ID	P15056
免疫原	抗血清は、Ser602 のリン酸化部位周辺のヒト B-RAF 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 576-625

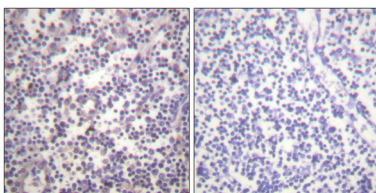
**背景**

この遺伝子は、セリン/スレオニンプロテインキナーゼの raf/mil ファミリーに属するタンパク質をコードしています。このタンパク質は、細胞分裂、分化、分泌に影響を与える MAP キナーゼ / ERK シグナル伝達経路の制御に関与しています。この遺伝子の変異は、心不全、知的障害、および特徴的な顔貌を特徴とする疾患である心顔皮膚症候群と関連しています。また、この遺伝子の変異は、非ホジキンリンパ腫、大腸がん、悪性黒色腫、甲状腺がん、非小細胞肺がん、肺腺がんなど、様々ながんとの関連が報告されています。この遺伝子には、X染色体上に位置する偽遺伝子が同定されています。 [RefSeq 提供、2008年7月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、補因子: サブユニットあたり2個の亜鉛イオンを結合する。、疾患: BRAF の欠陥は、心顔皮膚症候群 (CFC 症候群) [MIM:115150]の原因である。心顔皮膚症候群とも呼ばれる。CFC 症候群は、特徴的な顔貌、心臓欠陥、および精神遅滞を特徴とする。心臓欠陥には、肺動脈狭窄、心房中隔欠損、および肥大型心筋症などがある。罹患した人の中には、まばらで脆い毛髪、角質増殖性皮膚病変、および全身性魚鱗癬様症状などの外胚葉異常を呈する人もいる。典型的な顔貌はヌーナン症候群に類似する。これらの特徴には、両側頭頂部の狭窄を伴う高い額、眼窩上隆起の形成不全、下方傾斜した眼瞼裂、下垂した鼻梁、突出した耳介後角化などが含まれます。CFC 症候群の遺伝形式は常染色体優性です。、疾患: BRAF の欠陥は、様々な癌に関与しています。、疾患: BRAF の欠陥は、肺癌に関与しています [MIM:211980]。、疾患: BRAF の欠陥は、非ホジキンリンパ腫 (NHL) に関与しています [MIM:605027]。NHL は、体の免疫系の一部であるリンパ系の細胞から発生する癌です。 NHL はどの年齢でも発症する可能性があり、リンパ節腫大、発熱、体重減少を特徴とすることが多い。、疾患: BRAF の欠陥は大腸癌 (CRC) の原因となる可能性がある [MIM:114500]。機能: 細胞膜から核への分裂促進シグナルの伝達に関与する。海馬ニューロンのシナプス後応答において役割を果たす可能性がある。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。TKL Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。RAF サブファミリー。、類似性: 1つのホルボールエステル/DAG 型ジンクフィンガーを含む。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、類似性: 1つの RBD (Ras 結合) ドメインを含む。、サブユニット: RIT1 と相互作用する。組織特異性: 脳および精巣。、

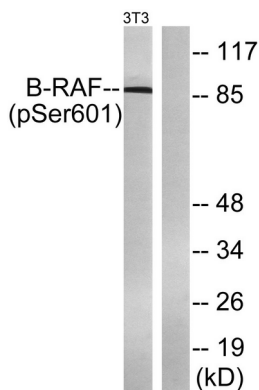
## 研究分野

アクチンダイナミクスの制御; MAPK\_ERK\_Growth; MAPK\_G\_Protein; 細胞増殖; mTOR

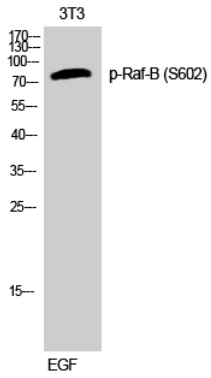
## 画像データ



B-RAF (リン酸化 Ser602) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒトリンパ節の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



EGF 200 ng/ml 30 $\mu$ L で処理した NIH/3T3 細胞のライセートを、B-RAF (リン酸化 Ser602) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 Raf-B (S602) ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析